

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和5年 6月 1日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所	
氏 名	
代表取締役社長 山本 貢司	
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号	
(0566)46-0628	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	伊藤忠製糖株式会社
事業場の所在地	愛知県碧南市玉津浦町3番地
計画期間	令和5年4月1日 ~ 令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	E 09 食料品製造業
②事業の規模	26,320百万円 (2022年度売上高)
③従業員数	96名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙の通り (産業廃棄物発生フロー図)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図) 環境保全管理者 公害防止統括者・・・生産ラインを統轄する者(廃棄物総括責任者) 公害防止主任管理者・・・品質検査室長 産業廃棄物関係管理者・・・製造室(廃棄物関係管理者) 産業廃棄物関係管理代理者(製造室、総務室)		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
①現状	【前年度(2022年度)実績】※別紙のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	排出量	t t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】※別紙のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	排出量	t t
	(今後実施する予定の取組)	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) —	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) —	

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ ー 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ー	ー
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ー		
②計画	【目標】 ー		
	産業廃棄物の種類	ー	ー
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ー		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ ー 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ー	ー
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ー		
②計画	【目標】 ー		
	産業廃棄物の種類	ー	ー
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ー		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ ー 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ー	ー
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ー		
②計画	【目標】 ー		
	産業廃棄物の種類	ー	ー
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ー		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（ 2022年度）実績】 ※別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】※別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

様式第二号の八(第八条の四の五関係)別紙

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項							
① 現状	【前年度（2022年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	木屑	混合物	動植物性残さ	
	排出量	3,249 t	45 t	1t	9t	1t	
	（これまでに実施した取組） 廃棄物の大部分を占める無機性汚泥は、原料糖の品質、生産量によって、増減する。工程の安定化を進め、発生量を抑制している。 また、一部は土壌改良剤として売却している。						
② 計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	木屑	混合物	動植物性残さ	
	排出量	3,147 t	44 t	1t	9t	1t	
	（今後実施する予定の取組） 製造工程の管理、設備の改善を進め、汚泥の発生量の削減をする。 土壌改良剤の売却を進める。 廃プラは、混合廃棄物の分別回収に努め、資源として回収できる物は回収する。						
産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
① 現状	【前年度（2022年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	木屑	混合物	動植物性残さ	
	全処理委託量	3,249 t	45 t	1t	9t	1t	
	優良認定処理業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	
	再生利用業者への処理委託量	3,179 t	45 t	1t	9t	0t	
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0t	0t	0t	0t	
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への	0 t	0t	0t	0t	0t		

	処 理 委 託 量						
<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>汚泥（石灰スラッジ）の大部分は、セメント原料として処理した。</p> <p>汚泥（石灰スラッジ）の一部は、土壌改良剤として売却した。</p> <p>廃プラ、木屑は、固形燃料として再生利用した。</p>							

(第5面)

②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	木屑	混合物	動植物性残さ	
	全 処 理 委 託 量	3,147 t	44 t	1t	9t	1t	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0t	0t	0t	
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	3,147 t	44 t	1t	1t	0t	
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0t	0t	0t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0t	0t	0t	
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>汚泥（石灰スラッジ）は、原料糖の品質変動に左右されて増加減するが、セメント原料や土壌改良土としての再生利用を促進させる。</p> <p>廃プラ（フレコン袋）は、前年と同様、再生利用業者へ処理委託し、廃プラ（ガラス、プラスチック）は、分別回収を進め、再生利用を促進させる。</p>							

